

公刊にあたって

皆様のご協力のおかげで図説「わが国の慢性透析療法の現況（2009年12月31日現在）」（以下「現況」）を速報としてここに発行する運びとなりました。

本調査は全国の透析施設や透析従事者の方々の熱意に支えられ、多忙な日常診療のなか、貴重な時間を割いてご協力頂いた皆様のお陰であることに感謝申し上げます。

本年も例年通り、日本透析医学会の非会員施設も含めた多くの施設のご協力を頂き、速報である図説「現況」の報告をさせて頂くことが出来ました。

また、本年も昨年と同様に本図説発行後も、さらにデータの質を上げるべく、問い合わせを行いたいと考えています。より正確なデータを基に例年通り、さらに詳細なデータを加えCD-ROM版として年末に配布させて頂く予定です。

「現況」調査の回収状況、および新規調査・解析結果についてご報告します。

「現況」調査は例年通り日本透析医学会施設会員施設に加え、地域協力委員の先生方などのご努力により、非会員施設、新規開設施設も対象施設として行われました。本年度はPDレジストリに対応するため、新たに地域協力委員を増員し、主にPDのみを施行されている施設を調査して頂きました。その上で事務局からPD施行の有無を確認し、調査用紙を配布いたしました。この効果もあって、2009年末の対象施設は4,196施設で、前年より72施設増加し、最近では最も多い増加数となりました。締め切りは例年通り1月末でしたが、4月20日を最終期限として、FAXや電話などで可能な限り回収率を上げるべく努力を行いました。その結果、最終的に施設調査（シートⅠ）にご協力頂いた施設は4,125施設（98.3%）であり、目標とした98%以上の回収率を達成することが出来ました。また施設調査（シートⅠ）と患者調査（シートⅡ～Ⅳ）の両方にご協力頂いた施設は4,013施設（95.6%）であり、目標とした95%を達成することが出来ました。また、患者調査シートの回収媒体の比率は、電子媒体（主にUSBメモリ）による回収が3,343施設（81.0%）と8割を超え、データ処理がより正確に、かつ簡素化が達成されました。

2009年末の調査項目では、施設調査・患者調査において、PDレジストリとして、HD,HDFなどとの併用例、その他の詳細な調査項目が追加されました。

またCKD-MBDに関するガイドライン作成のための調査、さらに昨今透析医療において大きな問題の1つとなっている、認知症および生活活動度の実態調査を行いました。現在企画されている透析療法に関するガイドラインの基礎資料となる予定です。

また新規解析結果として、昨年度に調査した透析量や方法、電解質などの一年生存に及ぼす影響に関する解析、さらには大腿骨頸部新規骨折に及ぼす要因に関する解析の一部を掲載しました。

ところで、本統計調査に対して、従来から会員の皆様より様々なご質問やご批判も頂いています。最も多い内容は、“①この様な面倒な調査を行う必要があるのか？”“②調査項目が多すぎる”“③なぜ毎年調査項目を変更するのか？”“④事前に調査項目を教えて欲しい”“⑤毎年行う意味があるのか”などです。

可能な限り、一つ一つのお問い合わせに回答していますが、誌面をお借りして、上記の主な質問にお答えしたいと思います。①、日本透析医学会定款の第2章4条（目的及び事業）に、「この法人は、透析医学すなわち血液浄化法（血液透析法、腹膜透析法、血液濾過法、血液吸着法、血漿交換法等）とその対象疾患の病因、病態に関する研究調査を行い、それについての発表、知識の交換、情報の提供等を行うことにより、透析医学に関する研究の進歩と知識の普及を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とする。」と明記されて

います。本調査は本学会の目的そのものであり、最も重要な事業の一つです。もちろん定款に有るから行うのではなく、重要な事業であるからこそ、定款に定められています。本調査が無くなれば、わが国の透析医学の羅針盤を失うに等しいと考えます。②、調査項目数に関して；③とも関連しますが、本調査は、ガイドライン作成など毎年さまざまなニーズに応えるべく調査項目を選別しています。このため、紙媒体の調査項目をご覧頂ければ判る様に、原則的に毎年一枚に収まる項目数に限定しています。すなわち合計の項目数（入力カラム数）は増えないように努めています。③、毎年調査項目に対するニーズが変化しています。これに対応すべく調査項目を決定し、また、調査項目が増加し続けられないよう項目の取捨選択をしております。④、調査項目に関する決定を2年前に行うのは非常に困難です。しかし、決定した調査項目をなるべく早く周知するため10月に透析医学会会誌に「調査項目のお知らせ」を掲載し、対象施設には個別に調査項目のお知らせをFAXでお送りしております。⑤、本調査を毎年行う意義は非常に大きいと考えます。これを隔年とした場合、毎年ルーチンな調査が隔年毎になれば、本調査に対するモチベーションが低下し、回収率が低下する事を懸念します。本調査は、毎年行うことからこそ、高い回収率が維持できているのだと考えています。

しかし、本調査に関して皆様からご不満を頂く他の要因は、調査や解析結果をご協力いただいた会員諸氏に十分還元できていない点にもあると自覚しています。これに対応して、調査結果の速報である本図説は施設会員のみにはしか配布されていませんが、日本透析医学会のホームページでは、2002年末以降の図説をどなたでも見ていただく事が出来ます。またさらに詳細なデータや解析結果を掲載したCD-ROM版も会員全員が検索できる様に現在努力しています。

今後もひとえに努力して参る所存です。ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

以上、高い回収率で図説「わが国の慢性透析療法の実況（2009年12月31日現在）」を公刊できるに至りましたのは、ひとえに会員をはじめスタッフの方々のご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げますとともに、統計調査委員会としまして、臨床に役立つ情報を出来る限りご提供できますよう、さらに努力しなければならないと考えております。最後に、統計調査にご協力頂いた皆様、ならびに全国の地域協力委員の先生方のご努力に深く御礼申し上げます。

社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会
委員長 椿原 美治